

高退協ニュース

高知高退協事務局

2011.5.2 No.170

2011年5月2日

高知県高等学校退職教職員協議会
〒780-0850 高知市丸ノ内2丁目1-10
TEL 088-1822-1688
TEL 088-1822-1682
TEL 0165012111893

定期総会開く 会長に國松さん選出

高退協定期総会が、四月二十三日(土)高知城ホール於いて四二名で開かれ、議長に南千加良氏を選出した後、この一年間で逝去された九名の方々への黙祷を捧げました。三谷会長の挨拶の後、十名の新加入者の紹介がされ、出席された三名の方が、決意を述べられました。

続いて、米満敏孝高教組執行委員長から特に「高知県立警察連絡制度について現状と問題点」を中心としたメッセージがありました。

審議では、「集金や手配りの状況や工夫」「議案書体裁整理及び提案の検討」「情勢や要求に対応する柔軟な体制(二役会等)」を「県政の民主化をすすめる県知事選の取り組み」高知地区でのプロックづくりと交流「憲法を守り暮らしの中に生かすたまたか」「県下の軍事化に反対するたまたか」「高退協のありかた」について懇談会「会員の切実な要求に応じていく活動」「高教組との具体的、日常的な連携を」など、活発な議論が行われました。

総会終了後には、手づくり農産物の展示、頒布が島本聡、長尾美佐子さんのお話があり、金がおこなわれ、e.comが寄せられ、さっそく全退教に送金しました。

なお、総会で選出された役員及び退任された役員は次の通りです。

- 会長 國松 陽一
- 副会長 橋元 正博
- 事務局長 中村 幸三
- 事務局次長 梶原 詳三
- 常任委員 井上 圭介、三谷 隆彦、田所 昌澄、松山 和雄、井垣 政利、島本 聡、千光 厚子、森下 清二、武田 繁之、西田 繁之、岡崎 清恵、和田 明
- 監査委員 千田 繁之、西田 繁之、岡崎 清恵、和田 明
- 顧問 和田 明

役員選考委員

- 林 応子
- 坂本 敬子
- 鎌田 伸一
- 胡摩崎 ゆう子
- 小島 真子

(退任)

- 土居 正明
- 田村 昌子
- 濱田 昌子
- 飯田 まゆみ
- 山脇 正照

退職者を励まし 新加入者を祝う会

盛大に開かれる総会に続き、高教組主催、四階ホールにて八五名の参加で盛大に開かれました。高退協からも三九名参加しました。祝う会は、米満高教組委員長の挨拶、國松高退協会長の乾杯の音頭で始まり、第一部の励ます会では、本年度退職で出席された七名の方々から思いのこもった挨拶がありました。また、県議選をたたかった橋元陽一高退協副会長からは、感謝の報告とこれからの決意が述べられました。第二部の新加入者を祝う会では新組合員が、それぞれの職場の代表によって紹介され、力強く思いを述べられました。

就任の挨拶

東日本を襲った千年に一度と言われる大地震と大津波のすさまじい被害に加え、福島原発の重大事故による放射能汚染の広がるなか、高退協の新しい役員体制がまじりまじり、役員を代表してみなさんにご挨拶申し上げます。

東日本を襲った未曾有の大災害と、これにともなう人災と言わなければならない。政府や財界が進めて

2011年メーデー



高退協からは、11名参加
会長が先頭にたって、ガンパロー

きた日本の社会のあり方とシステムを根本から見直し、人間の命と安全、共同を重視するシステムへの転換を強く迫っていると思います。国民の命を守る防災対策よりゼネコンや財界のための無駄な巨大プロジェクト、余分に空港や三本もの本四架橋などに国民の税金である莫大な国家予算を投入し、赤字国債を増やせました。

も、国民の被害を最小限度に食い止めることは可能です。この国家事業によって雇用は確保され、経済は活性化し、人と人の絆を取り返し、東日本の復興と防災国日本への新たな出発となるに違いありません。人々が共同できる新たな社会システムをみんなで作る。こうした政策への転換を求めて、積極的に人々に働きかけていく必要があると思います。そのことをしっかりと頭において、新しい国づくりへ一歩踏み出す心意気で事に当たりたいと思います。「災い転じて福となす」と言うことを胸に高退協の活動をみんのですすめたいと思います。高齢者のつながりの強化と要求の実現のため、現職の皆さんとも手を携えすすんでゆきたいと思えます。よろしく願いいたします。

追悼

- 井上 英生さん
二〇一一年三月十日
逝去されました。
- 崎山 正さん
二〇一一年四月二十四日
逝去されました。
- 三善 孝子 さん
二〇一一年五月二日
逝去されました。

高教組より

米満 敏孝

3月11日、全教会館7階で日高教定期大会が開催中に巨大地震が発生しました。

大会はすぐに休会となり、翌日再開されましたが、討論を省き役員選挙と議案採決を行いました。

高知からは私と谷内書記長が出席し、震度5強の揺れを体験し、今年度の運動の柱に「南海地震対策」を加えることを決意し帰高しました。

高知県においても、はじめて「大津波警報」が出され、一部地域で浸水の被害がありました。その時の学校の対応はまちまちで、津波に対する認識の甘さや対応方法に保護者からの苦情が寄せられるなど、危機管理が十分でないことが露呈しました。

発生が予想されている南海地震（東南海・東海地震との連動の可能性もある）に対する対策は喫緊の課題で、これまで発生した地震災害や今回の東日本大震災を教訓として、その備えを急がなくてはなりません。

そのため、高教組は県教組と共同で、県教委に対して、「耐震補強改修を予定

を前倒しして行うこと。」

「海岸に近い学校については、児童生徒のみならず地域の避難所となることから、安全な地域への移転を検討すること。」など14項目について要望書を提出しました。

新年度がスタートしましたが、高教組書記局でも、新しく変化がありました。専従者が書記長1人になり、書記局勤務者が3人から2人になったことです。

高知高教組は、県立学校の労働組合として、教職員の権利の擁護と拡大、労働条件の改善、子どもたちの学習権の保障等に取り組む一方、労働者として、また地域に住む市民として高知県内外の労働組合や民主団体との様々な共同の取り組みも行い積極的な役割も果たしてきました。

新執行部は、業務の整理や分担の見直しも行いながらも高教組運動を全力で取り組む決意です。高退協の皆様にはご不便をかける場合があるかもしれませんが、高知城の近くに来られた際には書記局にお越しく下さい。またこれまで以上にご支援をお願いします。

飲水思源

「善なき悪はなし」 横田 慧

ある年、B郡中学校教頭・生徒指導担当教諭の研修会に招かれて、講師をつとめました。

私は一足先に会場に着いていました。まず入ってきた数人の教師たちの一人が、「もう研修はええ、講師の話が済んだら質問をせず、帰るぞ」と言いました。ずいぶん失礼な態度ですが、まだ私とその日の講師と名乗っていませんから失礼とは言えません。

そこで、それとなく私が講師であることを知ってもらおうと思いついたのが、黒板にあとで使う資料を板書することでした。それは「小論理学」の一節で、「単に内なるものは単に外なるもの」というくだりを含んだ少し長い文章です。すると、「もう研修はええ」と言った人がすぐに書き写し始めました。先生といふ職業は、勉強のクセが身に染みていると思えました。

私は、「単に内なるもの」で、子どもの潜在的な人間性を指し、「単に外なるもの」で、私たちおとなのもつ人間性を語り、子どもを非難する前に、まずおとなの教育責任を顧みることの大切さから話を始めたのでした。

それにつづいて話したのが、いわゆる非行を犯した生徒に対し、過去の指導例（処

罰）を素早くとりだし、「均衡」を失しないように処理するといふのは、教員免許がなくてもできる実務能力だと。

これと対照をなすもので、その生徒のよい面をとりだして情緒的に弁護する態度をどう見るかです。それをさらに「理論的」にして、「こんな生徒にだれがした」に力を入れないで、問題になっている行為の具体的な「なに」「なぜ」の吟味をさせない場合も。いうなれば、その生徒の「善い面」と「悪い面」とを、並列して挙げるのではなく、一つの人格のなかで両面がどう統一されているかをみることで、教育としての勝負どころでしょう。

次から次へと問題行動が多発するなかで、そんな悠長なことではできない、というのも分かります。だからといって、原則をあきらめることは教育にとつては自滅するようになるのです。

敢えて「原則」を言うのも研修の場では許されるだろうと、非行が問題になったのを機会に、以後その生徒が「生まれかわった」ほどになる契機にどうやってするかを考えようと話したことでした。

「禍福はあざなえる縄のごとし」よりも「災い転じて福となす」が上位、さらに「善なき悪はなし」（ヘーゲル）はもっと上位の見方です。生徒が横着に見えだしたのが、自立への端緒であるように。なお、「帰るぞ」先生が一番熱心に質問されました。

西から東から
幡多学 研究



「地域にとつての学校」 山下正寿

「地域学」とよばれる「地域の歴史、文化、自然などの研究から、地域づくり研究」まで地域の課題解決能力を高める「楽しみながら実践する」学習が広がりがつつある。

私は、高知県の最大の課題は、「地域課題を分析し、大胆な企画を立て、粘り強く組織的に実践する能力」が生徒学習に位置付けられていない事だと思ふ。小学校はまだしも、中・高校など最も地域に目を開く時期にクラブや受験勉強など学校内教育に子どもを閉じ込め、人や自然や暮ら

しなど地域社会に関心、驚き発見、喜び、創造の感性を持たない子供たちがふえている。学校統廃合、学区制拡大、学

校格差、学力テストなどすべてが地域から子どもと父母と教師を遠ざけ「学校閉塞化」を生み、子どもの無気力化、教師の充実感なき多忙化に拍車をかけている。

「土佐の教育改革」は高知の地域特性を生かした学校づくりのスタートであったが、「教育行政改革」がテーマからはずされ、根っこに悪しき政治的土壌がのこされたままだった。知事が変わり、実務成果主義の教育長に変わり、さらに失政豊かな教育委員長が選ばれ、教育行政は後戻りを始めた。教育委員長は学校長会への挨拶で「学校では一

つの方向に向ってまとまるよう職員をリードすること」の重要性を強調したようだ。戦

前の教育勅語時代を回想させる言葉だ。具体的には、学校に「校旗」「県旗」「国旗」をかかげるよう指示したそう

だ。この教育理念の貧祖さ、時代錯誤にはこけそうになった。「このままでは、子どもや教師や父母だけでなく、地域も危ない」という危機感がわいてきた。早くも、高知市で中学生の非行が倍加し、警察と学校が連携して取り締まる方向が出されている。最も権力的で非教育的な地域連携である。

「地域学から見た教育」は「困難をかかえた地域を変えようとするエネルギー」と結びつき、子どもと共に地域の未

来を築きあう環境で育まれる学校づくりである。学校の困難を教師が抱え込まず、地域の「元気ネットワーク」に学び、支えられ、参加することで、乗り越えられると思ふ。何よりも「自らの教育理念」を高め、逃げずに踏み出す一人から変化は始まる。教職員OBは、豊かな経験を活かして教育研究や子育てネットワークへの参加をライフワークの一つにしてはどうだろうか。手伝うのではなく、共に参加する楽しいボケ防止とも考えられる。

*「幡多からの投稿」の要請を受けて、書き始めたが、気になることが先に出てしまった。次からは、面白い地域探究秘話と思いつきり言いたい放題を中心に書きたい。

震災に思う

井上圭介

ザ・デイ・アフター・ツモローという映画を思い出しました。地球の温暖化により両極の水が融け海水塩分濃度が急激に低下、瞬間に氷河期に入るといふストリーです。

ニューヨークの博物館に草を食んだまま凍死したマンモスが展示されているシーンがあつてなかなか迫真的な映画です。急激な低気圧の発達で想像を絶する洪水が都市を襲います。ニューヨークは高さ300メートルを越す高波で水没、高知なら五台山が水没ということでしょうか。以前見たときは荒唐無稽と思つたのですが、今は起こるかもしれないと考えてしまいます。ちなみに恐竜絶滅の要因とされるユカタン半島に直径10キロの隕石が衝突したときはマグニチュード12〜14の地震と高さ1000メートルの津波が発生したと推定されています。「防災」という概念があります。耐震の建造物、高い防潮堤。確かにこれらが力を発揮し昔はすめなかつた所に住宅地ができました。しかし、私は「逃災」でな

ければ通用しないときがあるという自覚が必要だと思ひます。先人は「逃げる」「避ける」の重要性を伝えてくれました。しかし明治以後富国強兵の国づくりが進むにつれて「逃げる」ということはよくないとされるようになりました。「逃げるな、正面から立ち向かつて行け」とされ、それで敗れても「いさぎよい」という美学が主流の時すらありました。いつしか、人間の力で自然災害を克服できると思ふ風潮も出てきました。しかし、100メートルの津波に立ち向かうのは愚の骨頂です。

私は以前より「地球に優しい」という言葉に疑問を持つていました。主語が違うのではないか。「地球が優しい」「私たちに、と思ひます。

地球を守るではなく、地球に守られていくということでしょう。大気圏の写真をみると私たちが優しく包んでくれているんだなあと感じます。途方もない過酷な環境の宇宙空間を宇宙服無しに航行しているのですから。もちろん、その優しい地球に迷惑をかけないよ

高校・障害児学校教科別社会科部会。

総合学習の取り組み、「防災について」11時間、資料は膨大なもの。

「政経小論文指導」論文で試される「力」は「自発的に考えを掘り進めていく力(思考力)」と「他者に対して表現する力(表現力)」である。こんな教材を使い、推薦入試や自己推薦文の指導に当たる。

授業評価5.2点・欠点者12名、学年末評価を心配する。こんな短文では、発表の内容

高校・障害児学校教研に学ぶ

を把握出来ないだろう。次回の教研には、高退協から多くの参加が望まれる。「09年度に、うつ病等の精神疾患で休職した、全国の公立学校の教職員は5458人と文科省が発表した。年代別に見ると40代、35%、50代39%とベテランが目立つ。」研究会に参加した教員もこの年齢、参加して学ぶ層がない。教員は土・日も出勤・勤務日も7時・8時まで残業とか、生徒も含め、次のステップへの充電期が必要。w

う努力しなければならぬことは言うまでもないことです。そんな中で、地球が自己の都合で微調整を行なうのはしかたのないことです。願わくば「防災」の概念で可能な程度の調整ですませてくれればありがたいのですが、地球にも事情があるでしょうからそうもいきません。「逃げる」の定番もあるでしょうし、それかなわぬ時もあるかもしれせん。

思ひ上がりをやめ、現時点で人間にコントロールできることとできないことを認識する。そのうえで「防災」と「避難」を考える。「逃げる」ことの研究、訓練も重要でしょう。なににより、逃げるのが大切だよ、との認識が重要でしょう。現在も深刻な状況にある福島原発事故については項を改めます。

県議選に挑戦して

橋元陽一

昨年九月二十八日、来客があり、玄関に出てみると、田頭文吾郎、塚地さち両県議が立っておられ、びっくりです。お二人から切り出された話が「来年四月の県議選で、共産党公認候補として高岡郡選挙区に出馬せよ。」とのこと。

それから、三時間近く県議会をめぐる情勢、定数四人区の高岡郡選挙区で日本共産党の議席確保のたたいの意義を熱く語られた。四年前が無投票になったこと。高岡郡選挙区からの保守系議員の本議会での教育に関する質問内容が許せないこと、選挙戦になったら降りる現職議員も出る情勢だが、候補者がいないと聞えないことなど。お二人の熱意に押され、教育現場での経験しかない者でも闘いになるならと出馬を決意しました。

家庭菜園懇談会 #5

私はいままで金柑は、皮だけ食べるものと認識していたのに。金柑の種を取るのが大変と田村さんは云う。それなら種なし金柑が植えたらと学校生協でとりよせた。収穫にできるのは3年先だろう。

最近収穫後の貯蔵や料理方法の話が多くなりました。家庭菜園をやつてなくても、やさしい料理をいろいろ工夫しておられる諸先生方は非この会にご参加ください。

懇談会は
5月26日(木曜)
午後2時
セルフィーユ2階(ブリコ吉田店西)

一年余伸ばしてきた髭を剃り、一〇月五日に、県庁の記者室で公表し、それからの生活が一変しました。すぐにパソコンやポスター用の写真撮影。「右向け」「からだを斜め右にして、顔だけ左正面に」「もつと自然に笑え!」「雲がかかってきたから、少し待機だ」と、大騒ぎのスタートとなりました。

何から始めたらいいかかわからず、越知町の前議会議長の片岡清則さんに相談に行きました。地域住民の方々のつながりを大切にされてきた議員活動の経験を聞かせて戴きました。そして「おまんなは教員をしてきて自覚しにくいかもしれないが、相手の目線に立つて向き合わないと、そっぽを向かれるぞ。」と、議員としての心構えを教えてもらいました。

俳句

二月十九日 土曜
長浜・雪隠寺・若宮八幡宮・桂浜

龍馬恋ふ人の溢れし春館
一湾を切子光とせる春日
吉本伸秋

梅の香や吉祥天女在す寺

粗起ししたる神田に芹の花

中内英明

白梅の薄紅梅の香をくぐり

海馬シヨ一春まだ浅き水しぶき

中内みち代

春愁を太平洋に放ちけり

春霞呑み込んで行く漁り舟

小笠原さちを

碑は酒仙桂月日脚伸ぶ

縦横に飛行機雲や風光る

三月十九日 土曜

須崎市 桑田山

急登を来て快き花疲れ

寒桜地震の一湾一望す

吉本 伸秋

おのがじし天を戴く葱坊主

中内 英明

訪ね来て花に別れし師を偲ぶ

囀につつまれてゐる

温泉宿かな

中内 みち代

花の山苗木の育つ一処

裏口は初音聞く路里日和

それぞれに散りて残花を

惜しみけり

川柳

たんぼぼの章① 小澤 幸泉

悲しさに疲れて聖書 読んでます



石ころに話しかけてる 遠い夢

愚かにも青い地球に 線を引く

声だけが強い受話器で 泣いている

ある朝に夫婦茶碗が 割れていた

鯛雲いくさの日々を 忘れない

泣きじゃくり噛まれた跡の なつかしき

独裁者声なき蟻を 踏みつける

門前で終いの住処を 追いつ返す

たんぼぼと会話しながら バスを待つ

短歌

東日本大震災

山本晶子

赤・青・黄 ランドセルあまた 並びいて八十余人の子は波が 呑みぬ

誕生日ゆえケーキを買いて帰る

と言う二人子亡くしし父の顔

震災孤児八十二人のこの後を いかにも生くらんだ祈るのみ

安曇野抄

榊原忠彦

揺れずして揺れてゐる感じ春日 たち十二日目の今日も地震酔ひ 消えず

朝ドラの「おひさま」観つつ懐 かしき妻とゆきたる安曇野の旅

道祖神は男女仲良くおもしろし わが著の装丁もこれを使へり

原発列島

叶岡淑子

大津波すべてを呑みて瓦礫とす 家も車も漁船も橋も

国難というべき震災さりながら 原発危機はまさに人災

いつわりの「安全神話」崩れ去 り原発列島あらわに浮かぶ

三十五皿の思い出 其の九 役場前

「中越食堂」の田舎そば 松山 和雄

私は「そば」が好きだ。それも、大きさも長さも不揃いの、お箸ですくし強くつかむと、ポロツとちぎれてしまふ、そんな手打ちの「田舎そば」が好きだ。

そんな私も、十代のころはラーメン大好き人間だった。やがてインスタントラーメンが世に出てきてこれにはまった。まだマクドもミスドも無い頃のこと。

二十歳を過ぎて、山奥の小さな町の高校に赴任した。町の中心を清流がながれ、周りは緑の山にかこまれて、秋には黄色の錦にいろどられた。初めて目にする茅葺の民家やお茶堂を暇を見つけては歩きフィルムに納めた。

町の役場の前には小さな食堂があつて昼食はそこですることが多かった。ある日、たまたま「そば」を注文した。出されたそれは、私のイメージしたものと同じぶん違っていた。なんとも不恰好で、それでいてどんぶりから飛び出しそうに力強かつた。おそろおそろ箸でつまんで口に運ぶと、今までに無い

食感と味ですっかりはまった。その「そば」は、中越のおばちゃんがいづも奥のほうでなにやらこねては叩いて包丁で切っていたもので、あちこちの畑で白い花を咲かせる雑草のようなものから作られていることを後に知った。

やがてカップ麺が登場し、都会にはコンビニがあふれた。ハンバーガーなどのファーストフードも盛況になった。私も幾度か口にしてみたが、どうにも美味しくない。何よりも、食べたものからエネルギーが生まれるという気がしない。やっぱり、ゆっくりと、手間ひまかけたものには奥深い味がある。

私は「そば」が好きだ。それも、大きさも長さも不揃いの、十人打では十通りの味がするという。お箸ですくし強くつかむと、ポロツとちぎれてしまふ、そんな手打ちの「田舎そば」が好きだ。

この文は平成十四年度高知工業定時制卒業文集「ふくろう」のホームページよりの「送ることは」に執筆しました。

次回予定 下鴨神社 みたらし祭り



初月農園だより

島本 聡

最後の勤務先となった北校では、夜間に勉学にする生徒のために、職員による美味しい工夫された食事が用意されていた。その中で、山くらげという歯応えがこりこりとして、幼少のころ大好物であったふき昆布のようなものが出されていた。山くらげというから、わさびや、ふきのようなものを想像していたのだ。

退職後、何か珍しいものを育ててみようかと、物色していたところ、ケルン(別名山くらげ)なるものを見つけた。早速種をまき、育ててみると、以外に育てやすいのだ。チシャの芯が30cmに大きく育つイメージで、山くらげはその芯を乾燥させたもの。丁度梅雨にかかる頃に、乾燥させねばならなくなり、欲にそだてた120本のうち、10本もなかった。

ところが1昨年冬、新潟のおみやげ売り場で、山くらげをみつけた。なんと茎の長さは1m。今年は80cmに挑戦だ。

追伸 前号にて落花生の炒るのに苦労していることを書いたところ。電子レンジで4分程度で、できあがるとの電話をいただきました。つたない内容をよく読んでくださっているのに感謝します。